

10月21日に「リバーサイドカーニバル2018」が開催されました。今年も、天候にも恵まれ、会場の笠松みなど公園には、町内外から多くの方が集まりました。

道徳のまち笠松推進会議では、多くの方々に「道徳のまち笠松」を知ってもらおうと、ふれあいコーナーの一角にブースを出店しました。ブースにはオレンジ色ののぼりを立て、「道徳のまち笠松」の趣旨や活動の紹介パネル、ロゴマークを展示したほか、「道徳のまち笠松」をデザインした台紙に、自分で選んだシールを貼ってオリジナル缶バッジやストラップを作成できるようにしました。おかげさまで、親子連れをはじめ、たくさんの方に立ち寄っていただき、午後には缶バッジやストラップの材料が足りなくなってしまうほど好評でした。また、ブースを訪れた方にご協力いただいたアンケートの結果は、今後の活動の参考にさせていただきます。

「道徳のまち笠松」条例が施行されて10年が過ぎました。道徳のまち笠松委員や推進会議委員は、オレンジTシャツを着用し、「道徳のまち」の願いや思いが町民に広がり、浸透することを願って、これからも活動していきます。



来場者でにぎわう笠松みなど公園



大好評の「道徳のまち笠松」ブース

かさまつの民話「昔むかし」
こま化け橋 ⑤

行列の重みで、馬たちの背
中がしなつとる。
あわをふき、歯をむき出し
て馬たちはがんばつとつた。

雄留利は見とれなんだ。将
軍さまに見えんように川に飛
びこむと首までつかつて馬た
ちと一緒に橋の板をもちあげ
た。

伊多見も飛びこんできた。
次から次へ男どもが飛びこん
できた。そして、馬と同じよ
うに歯をくいしばつて橋を支
えたんじゃ。

足の先から、腰から、雨で
ふえたつめたい及川の水が村
人のからだをひやしていつた
と。

橋を持つ手がしびれ、足が
すべる。ひとりふたりと村人
は気をうしなつていつた。

「雄留利、雄留利、ご苦労だ
つた。將軍さまは、無事
お歌を残して都へおかえり
になつたぞ。」役人の満足
そうな声に目を覚ました。し

かし、そこは及川の中でなく、
土運びの場所であつた。はつ
として橋を見ると、まだ川の
中にだらしなく落ちたままだ
つた。
(つづく)



かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。
笠松中央公民館 松枝公民館 総合会館でご覧いただけます。